

法制度の同期，オープンアクセスなどの問題をセッションとして論じた。講演の内容にばらつきはあったものの，中味は充実していて傾聴すべき講演も少なくなかった。ここでも約16万ユーロの赤字が生じている。

TCの開催するコンファレンスは細分化しており，総合的議論は難しく，今回のWCCのようなやり方に期待はある。しかしコンファレンスでは大学等からの参加は参加者の業績評価に結び付いており，人が集めやすい。今回のWCCにはそれがなかったことが赤字の原因であり，このようなやり方には無理があるとの意見が主催者の反省であった。従来WCCでは多くのTCがそれぞれの会議を提案し，その集合体がWCCになる形も一般的であった。これがなくなったことに対して，TCからの問題提起もあった。

WITFOR, WCC, WCFのそれぞれで今後のあり方についての検証が必要であるとされた。

ボードメンバ

欠員となるボードメンバはPresident 1名，Vice President 1名であった。

PresidentにはLeon Strousが1人だけ候補であり，50票中49票を集めて信任された。IFIP Presidentで2期続けるケースは最近では珍しい。

Vice PresidentにはTA chairのMike Hinchey（アイルランド）とL. Sawhney（インド）が立候補し，32対17でMike Hincheyが当選した。

IFIP 会員モデルの問題

2011年のGAでは会長から1国複数の会員を認めるという提案があり，大きな反対があったが，今回は早くから会長はこれを諦めるという表明があった。

今年の大きなメンバ関連の問題はIEEEが退会することであった。各国の中でアメリカだけが，ACMとIEEEの2メンバを持っていたのが，ACM1メンバのみになる。2メンバになったのは1998年

であったから2メンバ状態は14年継続したことになる。アメリカは国として約1万4千ユーロの会費の2倍を払っていたのでIFIPの赤字基調の中では影響はなしとしないであろう。

IFIP5 力年計画

2007年から2012年にはIFIPは目標として，

- ① 学術活動の質の向上。
- ② 世界的な名声の向上。国際連合での地位の向上
- ③ メンバ全員の社会的地位の向上。
- ④ 学生教育のカリキュラムへのアドバイスと国際標準化。
- ⑤ IT実務家の地位の向上。

を挙げていた。これについて会長が評価し，いずれも不十分であったと述べている。しかし不十分な理由については十分に分析されていない。

注目すべきはIFIPの達成目標のうち，学術に関するものは1件のみであり，ほかは一般会員の地位向上，社会的発言であることである。これは日本の学会ではほとんど重視されていないが，学会には常に求められることであることを改めて認識していただきたい。

会費問題

IFIPは学術活動については世界的に役割を果たしているが，論文流通のオープン化に伴う論文集販売の減少，ヨーロッパにおけるインフレーションの継続などの理由で最近数年間にわたって赤字となっている。この対策として国連モデルによる国ごとの会費の見直し，新会員の増加などが議論されているが，結論が出ていない。

IFIPは過去の利益から227万ユーロの資産を持ち，その運用にも努力しているが，2013年度の予算では13万ユーロの赤字となっている。これに対する対処として2013年の会費を5%上げることが提案され，参加メンバの70%の賛成で認められた。2013年の会費収入の見込みは17万ユーロであるから，5%の値上げで赤字が70%減少する計算である。

2014年度にはさらに5%の値上げが議論される可能性がある。

次回の IFIP-GA

2013年のIFIP-GAはポーランドのPoznanで2013年9月12～14日に開催される。

TC 1 (Foundations of Computer Science)

代表：小林直樹 (東北大学)

TC 1は理論計算機科学に関するTCである。2012年のTC 1会議はETPAS 2012の開催期間中の3月25日にエストニアのタリンで開かれた。主な議題は、TC 1の予算や今後のTC 1主催の国際会議TCSについて。予算については、出版物およびIFIP主催の会議が減っていることによる収入減の問題への懸念が表明された。TCSについては、今後はWCCとは別のイベントとして開催することがチェアから提案された。

会議の開催については、TC 1主催の国際会議TCS 2012が9月26～28日にアムステルダムで開催された(同じくアムステルダムで開催されたWCCと同時期だが会場は別)。また、WG主催のイベントとしては、WG 1.5主催の国際ワークショップAutomata 2012(コルシカ島, 9月)、WG 1.6主催の書き換えシステムに関する研究集会および国際サマースクールISR(名古屋, 6月)などが開催された。

TC 2 (Software : Theory and Practice)

代表：萩谷昌己 (東京大学)

TC 2ミーティングはTOOLS会議に併設される形式で5月29日にプラハにて開催された。残念ながら萩谷は参加できなかったため、議事録により報告する。議事に先立って、ETHのBertrand MeyerによるThe Triumph of Objectsと題するキーノートスピーチがあった。主な議事は以下のようなものである。

Silver Core AwardなどのAwardの推薦が議論され、Silver Core Awardには昨年のミーティングに引き続

きBertrand Meyerが推薦された。また、Outstanding Service AwardにはDavide Sangiorgiが推薦された(後に9月28日に受賞)。以後、各WGの報告があった。

また、IFIPがスポンサーとなりTC 2が関係している会議として以下のものが確認された。ASE 2012, WICSA 2012, Software Composition (SC) 2012, OSS 2013。

TC 3 (Education)

代表：大岩 元 (相愛大学)

本年のTC 3会議は、7月6～7日に英国のマンチェスターで19カ国の代表が集まって開かれた。日本代表の大岩は欠席した。6日は各国からのレポートや組織運営に関する議論が行われ、7日にはTC 3の今後の戦略について議論された。

「ICTと教育」がすべての国にとって重要な課題であるのに対して、TC 3という組織が進化する必要があることがまず確認された。TC 3には現在9つのWGがあるが、中には活発に活動していないものもある。そこで、WGを再編成するために、次の4点について議論を深めることとなった。すなわち、1) 社会の中で教育を必要とする場所、2) 教育のパラダイム変化、3) ICT教育カリキュラムの枠組み、4) 持続する教育のための組織運営、である。これらについて各WGで議論をまとめたものを、2013年2月にパリで開かれるユネスコの会議を経て、同7月にポーランドのトルンで開かれるWCCE (World Conference on Computers in Education) 2013で確定して発表することになった。次回のTC 3会議は、この会議の前後の7月1日と7日に開かれる。これは、TC 3の50周年にあたる記念すべき会議になる。

TC 5 (Information Technology Applications)

代表：中野 冠 (慶應義塾大学)

TC 5年次会議が2012年9月22～23日アムステルダムで開催され、各WGと各国の状況の確認などが行われた。WGは9つあるが、活発に活動

しているのは、WG 5.5 (Cooperation infrastructure for Virtual Enterprises and electronic business (COVE)), 5.7 (Advances in Production Management Systems), 5.8 (Enterprise Interoperability) である。このなかで、WG 5.7 が特に活発であり、毎年会議には数百名の参加者を集め、TC 5 に対して財政的に最も貢献している。今年はギリシャで国際会議が行われたが、我が国からも 14 名が参加し、欧州メンバから感謝された。WG 5.7 会議について、2015 年に日本がホスト国になることが要請されている。一方、他の WG に参加する日本人が減少しており、今後の検討課題である。SIG は 2 つあるが、Information Processing for Agriculture が活発である。今回 TC 5 に参加した国別代表は、欧州 4 カ国、アジア 3 カ国でアジアの比重が増している。来年の TC 5 会議は、インドで行われる。

TC 6 (Communication Systems)

代表：齊藤忠夫(トヨタ IT 開発センター)

TC 6 (Communication Systems) では年 2 回の TC 会合を開催しているが、2012 年には 5 月にチェコ共和国のプラハで、10 月にはイタリアのピサで TC 会合があった。近年では年 2 回の会合のうち、前半の会合では全メンバの参加を原則とし、後半の会合では主として WG 議長が参加するものとなっており、全体として出席率は低下していると思われる。

日本代表は事情で 2 回とも欠席となった。5 月のプラハにおける会合では TC 6 40 周年の祝賀会も開催された。TC 6 メンバのうち、ブルガリアの Kiril Boyanov 教授は TC 6 が設立された 1972 年以来継続していたメンバとなっている。長い期間、TC 6 メンバを出している国でも 40 年の間にメンバが一度しか変わっていない国もある。日本は 1981 年からの参加で、小生は 3 代目である。こうした長い付き合いの中で、通信システムの将来について語るのが IFIP TC の伝統であることが分かる。

情報システムの中で、通信ネットワークが重要な部分を占めるようになってきていることを反映して、TC 6 の開催する会議の数は TC の中でも多いが、

2012 年も 15 件の会議が TC 6 で開催された。これは例年に比べてやや少ないと思われる。

ピサにおける第 2 回会合では TC 6 Chair を含め 6 名の出席であり、国代表はドイツの代表のみであった。来年度の会合計画のほか、IFIP の出版のデジタルライブラリが出版社からの公開となっており、IFIP の存在が見えにくくなっていることを改善する議論が行われ、これに対する改善がないときには TC 6 が自己資金で独自のデジタルライブラリを運営することが討議された。

IFIP の収入のうち、多くを占める出版図書の印税や、コンファレンスの参加費のうちの IFIP 本部への納入額で言えば、2011 年の数字で印税では全 TC のうちの 18%、event proceed では 31% を TC 6 が負担しており、各 TC の中で最も活動的な TC であると言える。

TC 7 (System Modelling and Optimization)

代表：亀田壽夫(筑波大学)

TC 7 Conference および TC 7 meeting は隔年に開催されるが、今年はその開催年でなく、第 26 回の TC 7 Conference が、来年 2013 年 9 月 9～13 日に、オーストリア国の Klagenfurt で開催される予定である。その運営について、PC メンバの間で電子メールによって、かなりの議論が行われてきた。議論が重ねられ plenary speaker 候補 10 名と補欠が選ばれて順次交渉が行われ最終的に 10 名が決まった。以前からの傾向のように会議全体が多くミニシンポジウムで構成される方向で進んでいる。他のミニシンポジウム提案や一般発表も募集されている。

傘下の WG については、TC 7 委員会は、その設立・改廃の際にかかわるのみであり、各 WG はほぼ独立に各々の活動を続けている。会議期間中に行われる TC 7 meeting において各 WG の活動の報告が行われるが、TC 7 conference や TC 7 委員会へのかかわりに対する積極さにも、各 WG の間に依然として違いがある。

TC 8 (Information Systems)

代表：内木哲也 (埼玉大学)

TC 8 は組織および社会の活動基盤である情報システム (Information Systems) の計画立案から、分析設計、開発、運用管理、利用評価、社会変革をも含む、人間-技術システムのマネジメント活動全般を対象としている。本年は WCC2012 の開催に合わせて、2012 年 9 月 22～23 日にオランダ王国 Volendam の Hotel Spaander において 14 カ国の代表委員と 5WG 代表委員、IFIP General Secretary の 17 名により第 43 回 TC 8 年次総会が開催された。本年は、TC 8 の預託金による社会貢献事業として昨年の総会で提案された、1) Test new conference formats, 2) Establish a TC 8 ranking of IS Conference, 3) Have a TC 8 Information Systems Summer School in a developing country の 3 つの Task Force チームに分かれ、具体的な方策を議論し、実施案を策定した。

また、数年来活動報告のない WG 8.8 は GA で解散承諾が得られたことが報告された。なお、次期 Chair には Prof. Jan Pries-Heje が、1st Vice-Chair には Prof. A Min Tjoa が再選された。また、2nd Vice-Chair には Prof. Jan Devos が推薦され、全会一致で承認した。来年は USA で 8 月 12～13 日に開催予定の AMCIS 2012 に合わせ、Chicago または Washington DC にて、また再来年はベルギー王国 Guet で開催される予定である。

TC 9 (ICT and Society)

代表：小向太郎 (情報通信総合研究所)

TC 9 の Business Meeting は 9 月にアムステルダムで行われ、同時期に開催された WCC2012 に関連して行われた Human Choice and Computers (HCC10) International Conference の内容の確認や運営方針に関する議論と、各 WG の活動状況ならびに今後の方向づけに関して話し合われた。2 年後 (2014 年) に実施予定の HCC11 の開催地としては、フィンランド代表から Turku University が提案され合意された。

WG に関しては、WG 9.5 (Virtuality & Society) の名称を、“Virtuality & Social Media” に変更することを IPOP に提案したのに対して、WG 8.2 との関係が議論となったことが報告された。これについては、ソーシャル・メディアに関する新しい “domain committee” を検討することになった。数カ国の代表と WG チェアから報告が提出されたが、これらをもとに TC 9 のテーマをどのように集約していくかということが議論されたが、時間の関係で今後も継続して議論することとなった。

TC 10 (Computer Systems Technology)

代表：金川信康 (日立製作所)

TC 10 はコンピュータシステムの技術、すなわち各階層における設計・評価技術とその概念、方法論、ツールに関する情報交換と協調促進を目的としている。執行部は 2008 年より Chair : Bernhard Eschermann (スイス代表), Vice-Chair : Ricardo Reis (ブラジル代表), Secretary : Paolo Prinetto (イタリア代表) であったが、2012 年末で任期満了により、TC メンバによる投票により 11 月に後任が決定される予定である。2012 年の TC Meeting は 9 月 4 日に電話会議により開催された。

TC 10 は 10.2 — Embedded Systems, 10.3 — Concurrent Systems, 10.4 — Dependable Computing and Fault Tolerance, 10.5 — Design and Engineering of Electronic Systems の 4 つの WG より構成されている。

WG 10.2 は 57 名のメンバにより構成されているが日本からの参加はないことが今後の課題である。

WG 10.3 のメンバは 57 名で、日本からは 3 名参加している。情報処理学会ではシステムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会が分野としては関連している。

WG 10.4 は 52 名のメンバからなり、日本から 5 名参加している。このほかに 20 名 (うち 3 名は日本国籍) の名誉メンバがいる。電子情報通信学会のディペンダブルコンピューティング研究会が連携している。情報処理学会ではコンピュータセキュリティ研究会が分野として関連しており、実質的な連携活動の可

能性について話し合っている。なお後援ながら、以下の会議が国内で開催された。PRDC'12 (Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing), Niigata, Japan, November 18-19, 2012)

WG 10.5 は 10 名のメンバに加えて 15 名の名誉メンバを擁し、日本からは 3 名のメンバと 2 名の名誉メンバが参加している。情報処理学会ではシステム LSI 設計技術研究会が活発に連携している。

TC 10 に関する新しい技術分野については一昨年より Wearable computing (WG 10.2), cloud computing (WG 10.4), “green” computing (WG 10.5) の各 WG に割り当てられることとなり、引き続き推進されている。今後当学会の関連する研究会との連携が期待される。

TC 11 (Security and Privacy Protection in Information Processing Systems)

前代表：岡本栄司(筑波大学) /
代表：村山優子(岩手県立大学)

TC 11 は情報セキュリティに関連する分野を取り扱う TC である。TC 11 の活動は全体活動と WG 活動に分かれており、全体活動では TC 11 の運営を決める Annual Meeting と国際会議 SEC (International Information Security Conference) を開催している。WG 活動では各 WG が国際会議やワークショップ等を開いている。

今年度、TC 11 の元日本代表 佐々木良一 (東京電機大学教授) が、TC 11 への貢献を評価され、IFIP の the Outstanding Service Award (OSA) を授与されることとなった。

今回の SEC2012 は、27 回目、6 月 4 日(月) ～ 6 日(水)までギリシャクレタ島で開催された。会議に先立ち 6 月 3 日(日)に、TC 11 の Annual Meeting が開催された。例年通り、朝 9 時から午後 6 時過ぎまで、SEC 会議の運営についての議論や WG 報告等が行われた。

SEC2012 は、ギリシャは、ユーロ問題で混乱が予想されたが、クレタ島は、至って平和に感じられた。来年の SEC は、ニュージーランドのオークランドで開催予定である。TC 11 のセクレタリ

の Lech J. Janczewski 博士が中心となって準備している。開催時期は、2012 年 7 月 8 ～ 10 日と、例年より 1 カ月遅い開催となる。2014 年の開催地は、フランスの学会 SEE (Société de l'Electricité, de l'Electronique et des Technologies de l'Information et de la Communication) の支援によりモロッコのマラケシュで開催される。

TC 11 では、現在、12 の WG が活動している。新たな WG が続々と創設されている中、今回は、監査 (Audit) 関連の WG が発足見込みである。今回の年次委員会には、申請が間に合わなかったが、現在設立準備中である。

TC 12 (Artificial Intelligence)

代表：山口高平(慶應義塾大学)

TC 12 は 1989 年に設立され、現在、Tharam Dillon 教授 (カーティン工科大学, 豪州) が議長を務めている。AI (人工知能) 全般をカバーしており、現在 33 カ国が参加し、6 つの WG (知識表現と推論、機械学習とデータマイニング、インテリジェントエージェント、セマンティック Web, AI 応用, 知識マネジメント) に、最近、コンピュータビジョンと知的生命医薬情報学が新たに発足し、8 つの WG が運営されている。

TC 13 (Human-Computer Interaction)

前代表：黒須正明(放送大学) /
代表：北村喜文(東北大学)

2011 年 9 月に INTERACT 2011 が Portugal の Lisboa で開催され、その直後に現地で TC 13 ミーティングが行われた。その次のミーティングは、2012 年 2 月 28 ～ 29 日に、Singapore の National University of Singapore, Kent Ridge Campus で開催された。なお、27 日にはミーティング参加者による workshop が行われた。

28 日の主な議題は、INTERACT 2011 の反省、INTERACT 2013 の準備の進捗報告、INTERACT 2015 の開催地の決定 (候補として、Bamberg

(Germany), Budapest (Hungary), Limassol (Cyprus), Mumbai (India), Paphos (Cyprus), Vienna (Austria) と6カ所も候補地が名乗りをあげるといがかつてない状況となったが、インターネット利用も含めた投票の結果 Bamberg, Germany となった)であった。

29日には、WGやSIGの活動についての報告と議論、TC 13の今後のあり方についての議論、TC 13のWebサイトについての議論、アジア太平洋地域でのHCIの組織化に関する議論などが行われた。

なお、今回のTC 13のミーティングについては、2013年4月25～26日もしくは5月3～5日にACMのSIGCHIの会期に合わせて開催されることとなった。また秋にはINTERACT 2013と合わせてCape Town (South Africa) で開催されることになった。

TC 14 (Entertainment Computing)

代表：星野准一(筑波大学)

TC 14 (Technical Committee on Entertainment Computing) は、2002年SG 16 (Specialist Group on Entertainment Computing, 議長：中津良平) として出発し、設立以来5年が経過した2006年8月にチリ、サンチャゴで行われたIFIP総会において、TCへの昇格が認められ、TC 14として活動を開始することとなった。また、SG 16に引き続きTC 14においても中津氏が議長を務めてきた。TC 14設立後6年が経過し、議長の任期(3年)および再任(3年)が終了した。今年度の2012年6月のTC 14会合において、設立当初から副議長を務めていたMatthias Rauterbergが議長に選ばれ、9月のIFIP総会で承認された。

昨年1年間のTC 14の構成員の変更・主たる活動は以下の通りである。

- (1) TC 14の主催する国際会議ICEC 2012を開催した。
- (2) 次期議長としてMatthias Rauterberg (Eindhoven University of Technology)が承認された。
- (3) 2012年9月時点でTC 14の国際委員の数は26名、WGの数は8である。
- (4) シリアスゲーム (serious game) のワーキンググループが新たに設立された。

IP3 (International Professional Practice Partnership)

代表：芝田 晃(三菱電機)

IP3は、2006年8月、サンチャゴのWCCにて、ITに関する世界的なプロフェッショナルリズムの推進活動の開始が決定されたのを受け、豪ACS、英BCS、加CIPS、米IEEE/CSにより、IFIPの下に設立された。情報処理学会は、高度IT人材資格制度の検討に資すると考え、2009年6月に参加し、ボード・メンバになっている。ほかには、南アCSSA、ニュージーランドIITP、ジンバブエCSZ、韓国KIISEが参加している。

IP3では、各国のITプロフェッショナル認証制度を尊重しつつ、国際的な通用性を確保するために、認証制度への要件の標準化を行い、これを基に各国の認証制度を認定している。ACSとCIPSが2008年に認定を受けた。

また、IT業界の著名な経営層で構成されるGlobal Industry Councilを設けて、業界からの認知や支援を得たり、World CIO Forum, SEARCC, WSIS等の会合にてIP3の活動を紹介して、メンバの拡大に努めたりしている。

今年度は、WCCに合わせて、9月にアムステルダムで年次総会とボード会議が開催され、情報処理学会の高度IT資格の制度案を報告した。

TC 1 : Foundations of Computer Science

- WG 1.1 Continuous Algorithms and Complexity
- WG 1.2 Descriptive Complexity
- WG 1.3 Foundations of System Specification
- WG 1.4 Computational Learning Theory
- WG 1.5 Cellular Automata and Discrete Complex Systems
- WG 1.6 Term Rewriting
- WG 1.7 Theoretical Foundations of Security Analysis and Design
- WG 1.8 Concurrency Theory
- WG 1.9 Verified Software (joint with WG 2.15)

TC 2 : Software : Theory and Practice

- WG 2.1 Algorithmic Languages and Calculi
- WG 2.2 Formal Description of Programming Concepts
- WG 2.3 Programming Methodology
- WG 2.4 Software Implementation Technology
- WG 2.5 Numerical Software
- WG 2.6 Database
- WG 2.7 User Interface Engineering (joint with WG 13.4)
- WG 2.8 Functional Programming
- WG 2.9 Software Requirements Engineering
- WG 2.10 Software Architecture
- WG 2.11 Program Generation
- WG 2.12 Web Semantics (joint with WG 12.4)
- WG 2.13 Open Source Software
- WG 2.14 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/8.10)
- WG 2.15 Verified Software (joint with WG 1.9)
- WG 2.16 Programming Language Design

TC 3 : Education

- WG 3.1 Informatics and ICT in Secondary Education
- WG 3.2 Informatics and ICT in Higher Education
- WG 3.3 Research on Education Applications of Information Technologies
- WG 3.4 Professional and Vocational Education for the Information and Communication Technologies (ICT) Sector
- WG 3.5 Informatics and Digital Technologies in Elementary Education
- WG 3.6 Distance Education
- WG 3.7 Information Technology in Educational Management
- WG 3.8 Lifelong Learning
- SIG 3.9 Special Interest Group on Digital Literacy

TC 5 : Information Technology Applications

- WG 5.1 Information Technology in the Product Realization Process
- WG 5.4 Computer Aided Innovation
- WG 5.5 Cooperation infrastructure for Virtual Enterprises and electronic business (COVE)
- WG 5.7 Advances in Production Management Systems
- WG 5.8 Enterprise Interoperability
- WG 5.10 Computer Graphics and Virtual Worlds
- WG 5.11 Computers and Environment
- WG 5.12 Architectures for Enterprise Integration
- WG 5.13 Bioinformatics and its Applications
- WG 5.14 Advanced Information Processing for Agriculture

TC 6 : Communication Systems

- WG 6.1 Architectures and Protocols for Distributed Systems
- WG 6.2 Network and Internetwork Architectures
- WG 6.3 Performance of Communication Systems
- WG 6.4 Internet Applications Engineering
- WG 6.6 Management of Networks and Distributed Systems
- WG 6.8 Mobile and Wireless Communications
- WG 6.9 Communication Systems in Developing Countries
- WG 6.10 Photonic Networking
- WG 6.11 Communication aspects of the e-World
- WG 6.12 Service-Oriented Systems (joint with WG 8.10/2.14)

TC 7 : System Modelling and Optimization

- WG 7.1 Modeling and Simulation
- WG 7.2 Computational Techniques in Distributed Systems
- WG 7.3 Computer System Modeling
- WG 7.4 Discrete Optimization
- WG 7.5 Reliability and Optimization of Structural Systems
- WG 7.6 Optimization - Based Computer Aided Modeling and Design
- WG 7.7 Stochastic Optimization

TC 8 : Information Systems

- WG 8.1 Design and Evaluation of Information Systems
- WG 8.2 The Interaction of Information Systems and the Organization
- WG 8.3 Decision Support Systems
- WG 8.4 E-Business: Multi-disciplinary research and practice
- WG 8.5 Information Systems in Public Administration
- WG 8.6 Transfer and Diffusion of Information Technology
- WG 8.9 Enterprise Information Systems
- WG 8.10 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/2.14)
- WG 8.11 Information Systems Security Research (joint with WG 11.13)

TC 9 : ICT and Society

- WG 9.1 Computers and Work
- WG 9.2 Social Accountability and Computing
- SIG 9.2.2 Special Interest Group on Framework on Ethics of Computing
- WG 9.3 Home Oriented Informatics and Telematics
- WG 9.4 Social Implications of Computers in Developing Countries
- WG 9.5 Virtuality and Society
- WG 9.6 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 11.7)
- WG 9.7 History of Computing
- WG 9.8 Gender Diversity and ICT
- WG 9.9 ICT and Sustainable Development

TC 10 : Computer Systems Technology

- WG 10.2 Embedded Systems
- WG 10.3 Concurrent Systems
- WG 10.4 Dependable Computing and Fault Tolerance
- WG 10.5 Design and Engineering of Electronic Systems

TC 11 : Security and Privacy Protection in Information Processing Systems

- WG 11.1 Information Security Management
- WG 11.2 Pervasive Systems Security
- WG 11.3 Data and Application Security and Privacy
- WG 11.4 Network & Distributed Systems Security
- WG 11.6 Identity Management
- WG 11.7 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 9.6)
- WG 11.8 Information Security Education
- WG 11.9 Digital Forensics
- WG 11.10 Critical Infrastructure Protection
- WG 11.11 Trust Management
- WG 11.12 Human Aspects of Information Security and Assurance
- WG 11.13 Information Systems Security Research (joint with WG 8.11)

TC 12 : Artificial Intelligence

- WG 12.1 Knowledge Representation and Reasoning
- WG 12.2 Machine Learning and Data Mining
- WG 12.3 Intelligent Agents
- WG 12.4 Semantic Web (joint with WG 2.12)
- WG 12.5 Artificial Intelligence Applications
- WG 12.6 Knowledge Management
- WG 12.7 Social Networking Semantics and Collective Intelligence
- WG 12.8 Intelligent Bioinformatics and Biomedical Systems
- WG 12.9 Computational Intelligence

TC 13 : Human-Computer Interaction

- SIG 13.1 Interaction Design and International Development
- WG 13.1 Education in HCI and HCI Curricula
- SIG 13.2 Interaction Design and Children
- WG 13.2 Methodology for User-Centered System Design
- WG 13.3 Human-Computer Interaction and Disability
- WG 13.4 User Interface Engineering (joint with WG 2.7)
- WG 13.5 Human Error; Safety and System Development
- WG 13.6 Human-Work Interaction Design
- WG 13.7 Interaction & Visualization (HCIV)

TC 14 : Entertainment Computing

- WG 14.1 Digital Storytelling
- WG 14.2 Entertainment Robot
- WG 14.3 Theoretical Basis of Entertainment
- WG 14.4 Entertainment Games
- WG 14.5 Social and Ethical Issues in Entertainment Computing
- WG 14.6 Interactive TeleVision
- WG 14.7 Art and Entertainment
- WG 14.8 Serious Games